

記者発表資料

平成29年9月6日19時

新たな管理型最終処分場

候補地選定委員会

第3回委員会 (平成29年9月6日開催)

「3 議題 (1) 1次スクリーニング結果について(1次調査対象地(案)の抽出結果)」の
審議結果について

林業振興・環境部 環境対策課

1 1次スクリーニング項目等の確認

これまでに決定されている1次スクリーニング項目等について確認した

(1) 1次スクリーニング項目

- ①新施設の整備に必要となる土地の条件(第1回委員会)
敷地面積:5.5ha以上
- ②幹線道路からの範囲(第2回委員会)
2.0km以内(直線距離)で到達が可能である範囲
- ③地形的条件(第2回委員会)
谷地形又は平坦地とし、土地(谷筋)の勾配(傾斜)は、14%以下
- ④土地の利用状況(第2回委員会)
既存道路や河川等に囲まれた面積5.5ha以上の一団の土地のうち、地形図及び航空写真により土地の利用状況を確認し、次の土地を除外する
⇒複数の建築物が確認できる土地
⇒複数の園芸施設やプラント施設等が確認され、既に事業用地として利用されていることが明らかな土地

(2) 1次調査対象地の抽出方法

- ①地形解析
 - ・国土地理院公開の「基盤地図情報数値標高モデル」を基に土地の傾斜量を求め傾斜量図を作成
 - ・傾斜量図を傾斜量の区分ごとに着色した傾斜量区分図を作成し、14%以下の土地を抜き出す
- ②1次調査対象地の抽出
 - ・国土地理院の地形図に、選定エリア、幹線道路からの範囲、傾斜量区分図を重ね、5.5ha以上の面積が確保できる土地の中から土地の利用状況を確認して抽出する

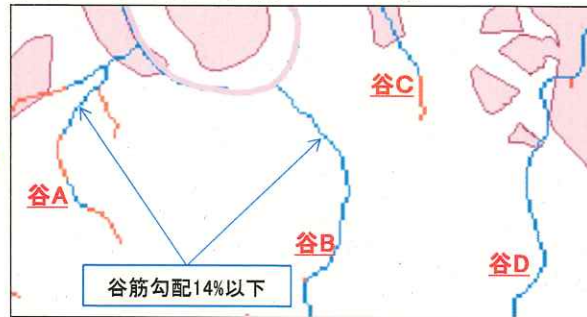
2 土地の勾配の確認

具体的な勾配(14%以下)の確認方法について、傾斜量区分図を作成して説明した

谷地形

- ①国土地理院公開の「基盤地図情報数値標高モデル(DEM)」の10mメッシュの数値データから解析を行い、谷筋を算出
- ②算出した谷筋の上流と下流の標高差を計算し、谷筋勾配(200mの勾配)が14%以下と14%超の谷地形を図面化

傾斜量区分図(谷地形版)のイメージ図



谷筋勾配14%以下の谷地形を青色で示している

平坦地

- ①国土地理院公開の「基盤地図情報数値標高モデル(DEM)」の10mメッシュの数値データを基に土地の傾斜量を計算
- ②計算により10m×10mの面がどの向きにどの位傾いているのかを求め、その計算結果を図面化

傾斜量区分図のイメージ図



勾配14%以下の土地を紺色で示している

2

3 1次調査対象地の抽出・決定

1次調査対象地の抽出手順について、次の(1)及び(2)のとおり説明し、委員会において、審議の結果、1次調査対象地として104箇所が決定された。

(1) 谷地形からの抽出について

傾斜量区分図(谷地形版)による谷筋勾配が14%以下の谷地形について、土地の利用状況等を確認して1次調査対象地を抽出した

傾斜量区分図(谷地形版)から求めた谷筋勾配14%以下の谷地形のうち、谷の上下流方向の長さが200m以上ある谷地形を選定した
※面積5.5haを正方形の形で考えると、約235m×約235mの大きさとなること、谷筋勾配は長さ200mの勾配により判断することとしたこと、から長さは200m以上とした

地形図(1/25,000)及び航空写真から土地の利用状況を確認して、抽出する谷地形の下流端、上流端を定めた
⇒確認された土地の利用状況は、複数の建築物、農業用地、道路(トンネル)、送電線等
⇒下流側、上流側ともに土地利用が確認された土地を除外し、残った谷の長さが200m以上確保できる谷地形を選定した

谷筋勾配14%以下となる101箇所の谷地形を抽出

委員会において、この101箇所を1次調査対象地とすることが決定された

3

(2) 平坦地からの抽出について

傾斜量区分図による勾配が14%以下であり面積が5.5ha以上の平坦地について、土地の利用状況を確認した

地形図(1/25,000)及び航空写真により土地の利用状況を確認

- ⇒ 確認された土地の利用状況は、集落、農業用地、工場、倉庫、ゴルフ場、採石場等であった
- ⇒ 既存道路や河川等で囲まれた面積5.5ha以上の一団の土地であり、かつ事業用地として利用されていないと思われる平坦地は無かった

勾配14%以下であり面積5.5ha以上の平坦地は、抽出されなかった

勾配が14%以下であり面積が5.5ha以上の平坦地は、抽出されなかったため、抽出条件を緩和して平坦地の確認作業を試みた

勾配が14%以下であり面積が概ね1.3ha以上の平坦地を含み、敷地面積として5.5ha以上確保できる土地

※第1回委員会において示した新施設に必要な埋立面積

埋立容量	埋立面積
17万m ³	13,710m ²
23万m ³	18,548m ²

埋立面積は埋立処分場の施設面積とほぼ同じであり、平坦地の面積を埋立面積と同程度確保できることが望ましい
⇒ 17万m³の埋立容量を確保するために、概ね1.3ha以上の面積とする

土地の利用状況を確認した結果、勾配14%以下となる面積が概ね1.3ha以上の平坦地を含む面積が5.5ha以上の土地が3箇所確認できた

委員会において、この3箇所を1次調査対象地とすることが決定された

主な意見

- ・箇所Aは、地形図の等高線の状態を見ると、地すべりが発生する可能性が考えられる。今後のスクリーニングにおいて、このような観点で見るといいのではないか。その他の箇所についても、地すべりが発生しやすい地形かどうかを注視してみたところ、他の箇所は、特に気になる地形はなかったが。
- ・箇所Bは、公共工事の残土処理場になっていると思うので、確認してほしい。
- ・箇所C、D、Eは、石灰岩の可能性があるので、今後詳しい調査が必要になると思う。
- ・各調査対象地の区域について、縦横比など考え方を整理し、次回の委員会で示してほしい。

1次調査対象地箇所一覧表

※1次調査対象地が市町村をまたいでいる場合や同一市町村内にあっても大字をまたいでいる場合は、面積の割合が大きい市町村及び大字に箇所を計上している。

番号	市町村名	箇所数	大字名	備考	番号	市町村名	箇所数	大字名	備考
1	高知市	2箇所	久礼野 付近 土佐山 付近		9	安芸郡芸西村	8箇所	馬ノ上 付近 久重 付近 和食 付近	4箇所 3箇所
2	安芸市	10箇所	川北乙 付近 井ノ口乙 付近 栃ノ木 付近 穴内乙 付近 大井甲 付近 西浜 付近	2箇所 2箇所 2箇所 2箇所	10	長岡郡本山町	6箇所	助藤 付近 古田 付近 北山 付近 寺家 付近 坂本 付近 立野 付近	付近 付近 付近 付近 付近 付近
3	南国市	1箇所	桑ノ川 付近		11	長岡郡大豊町	4箇所	津家 付近 桃園 付近 立川下名 付近	2箇所 付近 付近
4	土佐市	2箇所	甲原 付近 市野々 付近		12	吾川郡いの町	9箇所	清水下分 付近 清水上分 付近 神谷 付近 中追 付近 柳瀬石見 付近 下八川丁 付近 小川東津賀才 付近 小川縦ノ木山 付近	2箇所 付近 付近 付近 付近 付近 付近 付近
5	須崎市	4箇所	浦ノ内出見 付近 浦ノ内西分 付近 神田 付近 上分丙 付近		13	高岡郡中土佐町	12箇所	上ノ加江 付近 久礼 付近 大野見吉野 付近	6箇所 5箇所 付近
6	香南市	12箇所	夜須町夜須川 付近 夜須町国光 付近 夜須町沢谷 付近 夜須町羽尾 付近 香我美町撫川 付近 香我美町別役 付近 香我美町正延 付近 香我美町上分 付近	5箇所 付近 付近 付近 付近 付近 付近 付近	14	高岡郡佐川町	5箇所	加茂 付近 丙 付近 四ツ白 付近	3箇所 付近 付近
7	香美市	17箇所	土佐山田町北滝本 付近 土佐山田町榎谷 付近 土佐山田町繁藤 付近 土佐山田町角茂谷 付近 土佐山田町上穴内 付近 香北町西川乙 付近 香北町根須 付近 香北町萩野 付近 香北町吉野 付近 香北町西川甲 付近 物部町仙頭 付近	3箇所 2箇所 付近 付近 付近 2箇所 2箇所 付近 付近 付近 付近	15	高岡郡日高村	3箇所	下分 付近 柱谷 付近 大花 付近	付近 付近 付近
8	安芸郡安田町	2箇所	唐浜 付近	2箇所	16	高岡郡津野町	3箇所	姫野々 付近 赤木 付近	2箇所 付近
					17	高岡郡四万十町	4箇所	影野 付近 仁井田 付近 魚ノ川 付近 東北ノ川 付近	付近 付近 付近 付近
合計							104箇所		